

EVクラス 全国大会意気込む 学生フォーミュラ 袋井で静岡理工科大壮行会



チームを代表してあいさつする五十嵐洋太さん＝袋井市役所で

国内の大学生らが設計・製作したレーシングカーの性能を競う「学生フォーミュラ日本大会2022」(公益社団法人自動車技術会主催)で、電気自動車(EV)クラスに出場する袋井市豊沢の静岡理工科大の壮行会が二十二日、市役所一階市民ホールで行われ

た。大会はガソリンエンジン車(ICV)とEVの二クラスがあり、両クラスとも騒音やブレーキの作動などを確認する「車検」、ピジネスプランをプレゼンテーションする「静的審査」、車両を耐久走行させる「動的審査」などの総合得点で

順位を決める。

大会では一部を除く静的審査を二十三日～九月一日にオンラインで開催。車検・動的審査を九月六～十日に袋井・掛川両市にまたがる小笠山総合運動公園エコーパで実施する。

壮行会には同大フォーミュラプロジェクトのメンバー七人が出席。チーム一丸となり一年間掛けて製作した大会用マシンがお披露目された。大場規之市長が「最高のコンディションで臨み、力を存分に発揮されることを心より願っています」と激励。チームリーダーの五十嵐洋太さん(三)は「理工学部機械工学科四年生は「チーム歴代最高順位の八位を超えるよう頑張りたい」と意気込みを語った。

大会にはICV五十二、EV十三の計六十五チームが参戦を予定している。

(十屋祐二)